

ひよこのみずあび No.70

令和6年11月発行
足立区障がい福祉センター
幼児発達支援室



お子さんの発達について悩んでいる保護者からは「ことばについて」の質問が、多く寄せられます。ことばは他者とコミュニケーションをとるためのひとつの方法です。日常的な活動や遊びを通して、楽しく、無理なく進めていきましょう。

ことばにつながるコミュニケーション

ことばは、表出より理解が先に発達します。ことばの発達に課題があると、大人は早くことばが出るようにと、たくさんのことばを投げかけてしまいます。伝えることばは、単語・二語文程度の長さで短くはっきりと、伝わりにくいときには、身振りや指さしをまじえるようにしましょう。ことばの表出のためには、思いを伝えたいくなるよう、物事に対する興味や関心を広げるということも大切です。

他にもいくつかの大切なことを紹介いたしますので、ご参考になさってください。

アイコンタクトをとれるように

コミュニケーションに大切なのは、人とのかかわり、相手に注意を向けることです。あそびの中で視線が合いやすくなる工夫をしていきましょう。

おすすめの遊びは？

ふれあいあそび

高い高いや抱っこ、くすぐるなど、身体がふれあう遊びをたくさん行いましょう。かかわりあう中で、少しずつアイコンタクトが生まれたり、自分に楽しいことをしてくれる人として興味を示すようになっていきます。また、楽しい時の笑い声も声を発するという点で、発語へのアプローチにとっても大切です。



呼びかけに反応する

呼びかけへの反応は、コミュニケーションのはじめの一步です。名前を呼んでも振り向かないお子さんには、遊びを通し、他者に関心が向くようにしていきましょう。

おすすめの遊びは？

お返事あそび



大人が名前を呼び、「はい」と言いながら、お子さんの手を上げて返事をします。挙手の後にはしっかりほめましょう。ハイタッチをするのもいいですね。名前を呼びかけて振り返ったら、好きなおもちゃを渡すなど、名前を呼んだ人に目を向けたらいいことがあると、お子さんも気づくようになります。

好きなおもちゃを通して

お子さんの好きなおもちゃを使って一緒に遊び、遊びの中で必要なことばを獲得していきましょう。魅力的なおもちゃは手に取ってみたいくなるので、要求表現を獲得しやすい場面となります。

お子さんがおもちゃを欲しがる様子を見せたときは、ことばを使うチャンスです。

ひよこでの療育を紹介すると

ステップ1 大人がお子さんの手を取り、手の平と手の甲を合わせて、一緒に“ちょうだい”の身振りをします。

※ 身振りのしかたを覚えるステップです。

ステップ2 大人が身振りを見せ、身振りの模倣を伝えます。

※ 模倣できない場合には、ステップ1に戻り、要求を実現します。

ステップ3 要求場面で、子どもが自分から身振りで表現するのを待ちます。

※ 自分から身振りがいない場合には、ステップ1またはステップ2に戻り、要求を実現しています。

ステップ1～3を通して、大人はことばを決めて（「ちょうだい」「ください」など）言います。お子さんはことばを聞いたり、大人の口の動きを見たり、模倣しようとしてします。

指さしをする

人が指さす方を見たり、自分が興味を持ったものを知らせたりすることは、他者の気持ちや意図を理解したり、自分の思いを伝えたりするために大切な意味があります。遊びの中で楽しくかわりながら、指さしをしてみましょう。

おすすめの遊びは？

どっちがほしい？



お子さんの好きなものを2つ並べて、「どっちがほしい？」と問いかけ、お子さん自身が指をさす場面を作ります。お子さんに反応がない時は、大人が手を添えながらお子さんの好きそうなおもちゃにふれさせます。その時にその物の名前「くるま」など、ことばを添えることばを獲得するきっかけになります。

機関紙『ひよこのみずあび』は、

足立区公式ホームページ（<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>） 幼児発達支援室

ひよこ（障がい福祉センターあしすと通所事業）にアクセスすると掲載されています。

知ると分かる、すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI